

～毎月10日は人権を考える日～

「子ども会活動」の紹介

西条市では、現在4つの「解放子ども会」が活動しています。目的は、差別をしない、差別に負けない、差別を許さない子どもを育てることです。指導者は、隣保館や社会教育集会所の館長、近隣の学校の先生、保育士、保護者、育成に携わる方々です。子どもたちは、校区内に広く案内をして募集します。残念ながら、そんなにたくさんの子どもたちが毎回集まることはできません。しかし、指導者の方々は、部落差別をなくすという強い意志のもとに活動しています。

子どもたちは、兄弟が活動していたから、先生の勧めで、友達に誘われて、実際に来てみたら楽しかった等々の理由で、参加してくれています。活動する子どもたちの生き生きとした姿を見られることが、指導者にとっては一番の楽しみなのです。

活動内容は、人権学習、草花や野菜の育成、講師の方の指導でものづくり体験、DVDの視聴、絵本の読み聞かせ、現地へ出向いての見学、夏祭り、クリスマス会など多岐にわたります。子どもたちの興味は尽きることがありません。人権感覚・人権意識のある集団づくりも目指しています。様々な活動の中で、子ども同士で協力したり話し合ったりする場面があります。指導者に助けを求めたり、友達の手助けをしたりすることもあります。そういった活動の中で、友達のこと、指導者のことを理解していくのです。この人に聞けばいつでも教えてくれるとか、こういう聞き方をすると優しいとか、こんな言い方をすると不機嫌になるとか、相手のことをより深く知っていくのです。もちろん、トラブルになることもあります。トラブルになることも、大きな学習の機会です。ですから、すぐに指導者が間に入って問題を解決するわけではありません。指導者の立会いのもと、両者の言い分を十分に聞いて、お互いが納得するまで話し合います。そして、どうすることがいいか、考えさせます。解決策を自分で見つけ出すことがねらいです。これが生きていく力になっていくのではないかと考えています。学校ではなかなか時間が足りなくて、子どもたちに考えさせる時間を確保できない現状があります。

学校外で、様々な活動をしている子どもたちは、その活動を通していろいろなことを学んでいます。その中で、家庭とは違った姿、学校では見せていない姿を見せてくれると思います。そのような姿を、友達にも家族にも見せてほしいと考えています。そして、周りの人たちにその子らしさを認めていただきたいと思うのです。子ども会では、差別に気づく力、差別に気づいたらそれを発信する力、発信されたことを受けとめる力、差別をなくしていこうとする意欲、差別をなくすための力をつけていくことをねらっています。

子ども会に一度参加して子どもが急に変わるなんてことはありません。活動の積み重ねによって、少しずつ少しずつ身につけていってほしいのです。友達の喜びをいっしょに喜べる、友達の悲しみに寄り添える子どもになっていってほしいと願っています。

